



西林寺境内 親鸞聖人行脚像



西林寺だより

発行元
西林寺門徒総代会
広島県安芸郡坂町
坂東3-14-17
(082)885-0018
iタウンページ
西林寺

杖のことば

門松は
めいどのたびの
一里づか
馬かごもなく
とまり屋もなし



表題の上にあるマークは「法輪」といい、仏さまの教えを意味する仏教のシンボルです。
お釈迦さまの教え(法)を車輪に喩えたもので、インドの古代の言語「ダルマチャクラ」の訳です。「ダルマ」は法、「チャクラ」は車輪もしくは円盤形の武器を意味します。それは仏さまの教えが一ヶ所に止まることなく、あらゆる世界のあらゆる人々に行きわたることを、そして現在も、この私たちの上にはたらいっていることを、車輪の自由な動きに喩えています。また、私たちの迷いを破る仏さまのはたらきを、武器としての円盤になぞらえています。
このように法輪は仏教の教え、そのものを表していると同時に、礼拝の対象としての仏さま、そのものとして用いられるようになっています。

法輪

仏教壮年会 あれこれ

境内 松の剪定作業

10月25日(火)から数日間、西林寺境内にある数本の松の剪定作業を仏社会員で行いました。



松の剪定作業は春と秋の2回行いますが、特に秋の作業は大変時間を要します。連日の作業で疲れもありましたが、終了すると見事な松の姿に気持ちも癒されました。近年、松は手間がかかるとして、一般家庭では敬遠されがちですが、昔から身近な庭木

仏教壮年会行事予定

- 一月十日・新年互礼会
- 一月十三日・ご正忌前お磨き
- 二月十八日・安芸教区研修会
- 二月・安芸北組研修会

として長く接してきた松を、いつまでも大切に育てていきたいと思ってきました。

安芸北組グラウンドゴルフ大会

11月10日(木)焼山円福寺仏社会のお世話で、焼山公園で行いました。その後、円福寺本堂にて成績発表と懇親会がありました。50名の参加のなか、見事西林寺仏社会の山本政信氏が好成績で優勝されました。



中央仏教学院通信部同窓会報告

同窓会坂分会(幸野輝彦分会長)では、11月4日(金)に西林寺において第19回定期総会を行いました。この総会は、坂町三ヶ寺の持ち回りで行っており、総会後、西林寺ご住職の法話を聴聞し、門信徒会館で懇親会を行いました。総会では昨年に引き続き、坂町三ヶ寺の法座巡りをする事を申し合わせしました。



昭和47年に中央仏教学院に通信教育部が創設され、坂町では一期から受講し、現在98名の方が卒業されています。この数字は全国で一番です。皆さまも通信教育で浄土真宗の教えを学びませんか。問い合わせ先は、幸野まで ☎88512409

法座案内

御正忌報恩講

一月十五日(日)昼席より
講師 小川照信師

御紐解法座

二月十八日(土)昼席より
講師 森田義見師

春季彼岸会

三月十八日(土)昼席より
二月二十一日(火)朝席まで
講師 朝戸臣統師

編集後記

新年を迎え、心新たに『西林寺だより』を発刊し、皆さまにいろいろな情報をお伝えできよう努めてまいります。
少しでも身近な寺報となるように、皆さまからのお寺に係る写真等、寺報編集委員にご連絡ください。特に古い写真や古文書等ありましたら幸甚です。

聞思録(もんしるく)

新年を迎えました。浄土真宗の中興の祖、蓮如上人は御文章(お手紙)の中で、「ただいたづらに明かし、いたづらに暮して、年月を送るばかりなり。これまことになげきてもなおかなしむべし。」と、仰せになつています。時の流れの速さを驚きながら、ただ虚しく年を取るだけの人生ならば、それは嘆いてもなお悲しむべきものなのでしょう。

辞書を引くと、「年」という字には「実り」という意味があります。人間、一番確かなことは年を取るといことです。「ああ、年を取ったなあ」と愚痴もこぼれますが、「また今年も新たな実りをいただいたなあ」と受け止めれば、随分違った意味付けができます。門松は めいどのたびの 一里づか 馬かごもなく とまり屋もなし

これは蓮如上人と同じ室町時代の禅僧の休さん(一休宗純)の道歌です。道歌とは、宗教的、道徳的な教訓をわかりやすく詠んだ短歌のことです。

昔は年を数えるのに、誕生日ではなく正月にひとつ年を加えてきました。正月に家の入口に立てる門松を、ここでは、死に向かつて突き進む人生という旅(冥土の旅)がまた少し終わりに近づいたことを知らせる目安(一

里塚)に喩えています。

そして、その人生という旅には馬や駕籠などの乗り物はなく、自分の足で歩かなければいけません。それはどんな時も、自分の責任で生きてゆかなければならないということですね。また、人生という旅には立ち止まる宿はありません。「二年も入院する破目になって、人生にぽっかり穴が開いてしまった」というような虚しく過ぎたと感じるひとコマも、記憶から消し去りたい過去も、空白の時間ではないのです。「自分の都合というものさし」を外せば気付くのです。時間は常に流れ、常に何かに出遇いながら、新たな実りをいただきながら時間は流れていくことに。

私たちは「おめでとう」と新年を祝いますが、何が本当にめでたいことなのでしょう。親鸞聖人は、それは死に左右されない確かなもの(仏の願い)に出遇うことだと教えてくださいました。死は最も現実から遠ざけたいものでしょう。しかしだからこそ、この一大事を後回しにせず、人世無常のこの身の事実を今こそ深く心にとどめて、生きることの意味と本当の喜びをしっかりと考える時ではないでしょうか。

新年だからこそ、年を取ることの意味、さらには生きることの意味を仏さまの教えに訪ねてゆきたいものです。

ご案内

この度、1月28日(土)に住職在職30年を記念して、記念式及び祝賀会を開催することになりました。

現住職は、昭和61年に前任職が急逝された時、京都龍谷大学大学院にて仏教研鑽の途上にありました。弱冠24歳でしたが、同年に住職の拜命を受け、今日まで30年、西林寺の護持と正法弘通にご法耕(ほうこう)いたできてきました。

河野行昭

護持住職に任ずる



平成5年には本願寺大谷光照門主のご下向(かこう)を仰ぎ、住職継職奉告法要と本堂修復落成慶讃法要を執り行いました。そして翌年には坊守さまとの婚儀を整えられました。若くして西林寺を護持してゆくことは、並々ならぬご苦労があったことと拝察いたします。

これからも西林寺の護持と門信徒の教化にますますご精励(せいれい)いただかねばなりません。住職在職30年というの大きな節目です。少しでも多くの皆さまにご参集(さんじつ)いただければ幸いです。

門徒総代長 奥 紘太郎 合掌

仏教婦人会 あれこれ

仏教婦人会主催報恩講

11月17日(木) 昼席から19日(土) 朝席まで、西林寺住職を講師に報恩講法座が開かれました。

初日約130人の皆さまに、手作りのお齋(おさい)の接待がありました。



前日の準備

3日間の法座には、門徒の皆さまのみならず、安芸北組の御同行も多数お参りいただき、ご住職のご法話を聴聞いたしました。親鸞聖人のご遺徳(いとく)を偲(おも)び、阿弥陀さまのおこころにふれさせていただくことができました。これからも阿弥陀さまのおはたらきに感謝する日々を過ごして行きたいものです。



白いエプロン姿で料理詰め作業



手作り弁当 味噌汁・ようかん コーヒー・お菓子付き



ご住職のご法話



お齋の接待



西林寺仏教婦人会 行事のご案内

一月十三日(金) 御正忌前おみぎ

二月十二日(日) ダーナの日

みなさまのご参加をお願いいたします

「ダーナ」って何?

「ダーナ」とは、「与える」という意味で、「檀那」と音写します。それは自分と他者を別け隔てず、他者を思いやり、執着の心を取り除く、大切な仏道修行のひとつです。ですから、「あの人にしてあげた」と、自分が他者に何かを与えたということにこだわってはいけません。本来の自身の執着の心を取り除く実践にはなりません。

昭和40年世界仏教婦人大会で「世の中のことに目を向け、できることから思いやりの心を広げよう」と、毎年2月の第2日曜日を「ダーナの日」と定め、全国の仏教婦人会が足並みをそろえ、「思いやり(募金)の活動」をすることになりました。

西林寺仏教婦人会でも、1月に「ダーナ」の募金活動を行い、集まった浄財は坂町ワイハウスや坂町社会福祉協議会を始め、被災地域の義援金として寄付させていただきます。

ご寄付のお知らせ

西林寺本堂にあります木製椅子50脚と、長椅子6脚に合わせた座布団を、蓮華の会の皆さまよりご寄付いただきました。